

<研究成果の紹介>

三重県における茶寄生性ミカントゲコナジラミ発生程度の推移

農業研究所 茶業研究室

1. 研究の背景と成果

2004年に京都府で初発が確認された茶寄生性ミカントゲコナジラミは、2007年本県侵入以後急速に発生を拡大しています。

本虫は隣接茶園への飛翔や茶生産活動における資源移動に伴い分布を拡大してゆくと考えられます。そこで、今回、本県において本虫が初確認された2007年2月から現在までの県内の発生程度についての調査結果を取りまとめました。

調査は、茶栽培13市町のうち、本虫の発生情報があった市町の主要茶産地の圃場の任意の20箇所を選び、茶うね裾部の茶葉裏を目視により見取り調査を行い、表1に従って発生程度を求めました。(図1)

2007年3月には、既発生県の茶産地に接する上野市(発生程度：多)、亀山市の茶業研究室圃場(発生程度：少)で確認されたのみでしたが、2007年10月には鈴鹿市、四日市市、大台町で確認されました(いずれも発生程度は少)。亀山市の茶業研究室では発生圃場率が高まっていたことから(2月21%→10月50%)既発生市町では広範囲に定着したものと考えられました。

2008年2月の亀山市の発生程度は多～甚となり、スス病(写真2)の被害が確認されました。また松阪市で発生を確認しました。(発生程度少)

2009年7月には志摩市を除く茶栽培全市町で確認され、発生程度も高くなりましたが、初発確認から3年目となる上野市、茶業研究室圃場では発生程度が低下していることが分かりました。

2. 技術の適用効果と適用範囲

- 1) 既発生地域から未発生地域へ茶苗を持ち出す際や、出入り作等に起因する発生拡大を防止するための目安となります。
- 2) 移動分散機構解明や地域で取り組む総合防除対策のための資料となります。

3. 普及、利用上の留意点

結果は任意の圃場の発生程度であり、茶産地全体の平均を示すものではありません、このため未発生圃場においては、早期発見と早期防除対策につとめる必要があります。(野村茂広)



写真1. 成虫の発生状況 写真2. スス病の発生状況

表1. 発生程度換算表

| 指数 | 一カ所あたりの寄生程度 |
|----|----------------------------|
| 3 | 半数以上の葉に寄生が見られ、かつ寄生虫数が著しく多い |
| 2 | 概ね半数以上の葉に寄生が見られる |
| 1 | 概ね半数以下の葉に寄生が見られる |
| 0 | 寄生が見られない |

| 平均寄生程度 | 平均寄生程度 | 発生程度 | 平均寄生程度 |
|---|--------|------|--------|
| $\frac{0 \times N_0 + 1 \times N_1 + 2 \times N_2 + 3 \times N_3}{20 \times 3}$ | | 甚 | 80以上 |
| | | 多 | ～80 |
| | | 中 | ～60 |
| | | 少 | ～40 |
| | | 無 | 0 |

*1: N0は上表の指数0の所数。N1～以下同様
 *2: 上記の計算式で求めた平均寄生程度から、右表のとおり発生程度を求める。

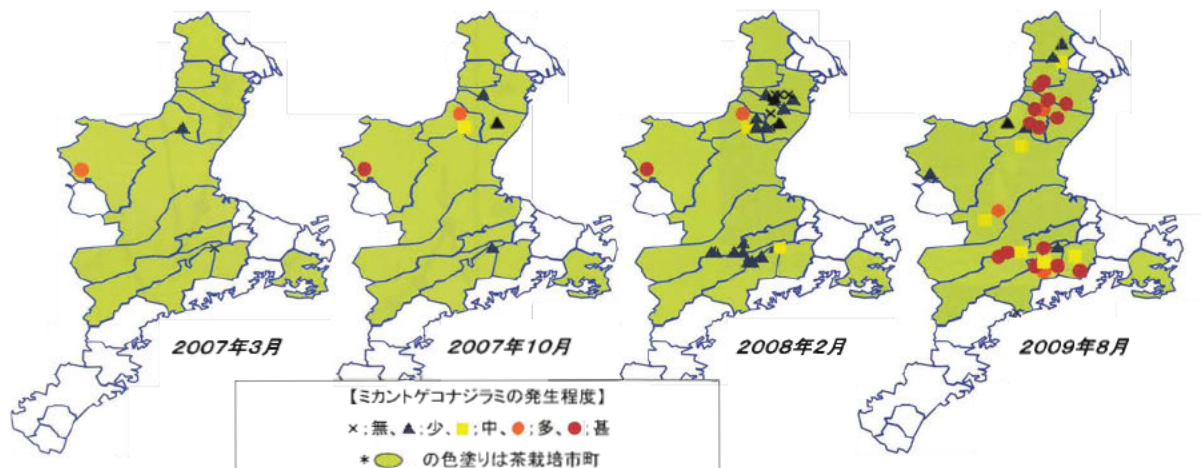


図1: チャ寄生性ミカントゲコナジラミ発生程度の推移